

第4回 足利市学校教育環境審議会 会議概要

日時：令和3(2021)年10月11日(月)14:00～16:00

場所：足利市役所教育庁舎4階会議室

出席者

委員 人見会長、岩田副会長、須田委員、岡村委員、橋本委員、齋藤委員、赤坂委員、源田委員、増田委員、大塚委員、沼田委員、古川委員 12名(13名中)

事務局 岡田教育次長、菊川教育総務課長、石井生涯学習課長、清水学校管理課長、近藤学校教育課長、蓼沼教育総務課主幹、齋藤教育総務課主任、菅谷学校管理課主幹、栗原学校管理課副主幹、林学校教育課主幹、真下教育研究所次長

- 会議次第
- 1 開会
 - 2 議事
 - (1) 施設・設備の整備について(協議)
 - (2) 中学校区教育の推進について(説明)
 - 3 その他
 - ・市内小中学校の訪問について
 - ・第5回審議会について
 - 4 閉会

会議の公開について：公開

傍聴者数 1名

1 開 会

2 議 事

(1) 施設・設備の整備について（協議）

【観点1 教育の ICT 化】

- 会長 教育の ICT 化について、資料のとおり、一人一台端末も国の施策で進んでいる。教育の ICT 化を進めるにあたり、このような点に留意して検討して欲しいとか、このような点に気を付けて進めて欲しいといった意見を賜りたい。意見を述べるにあたり、資料等について質問があれば事務局へお願いしたい。
- 副会長 GIGA スクール構想について、改めて簡単に教えていただきたい。
- 事務局 GIGA スクール構想は、子ども達に一人一台タブレット端末の配付、そしていつでもどこでもオンラインにつながるような無線 LAN 環境を整え、子ども達一人ひとりに個別最適化されたその子に合った学び、さらに他のクラスや他の学校の子も達との繋がりによって協働的な学びがいつでもどこでもできるように行うものである。
- 会長 GIGA スクール構想を国が推進して、コロナという状況がオンライン教育を後押しした側面もあり、全国で進められている施策。この教育の ICT 化について、どういう所へ手を差し伸べるのか、先生方の力を深めていく事などあると思うが、新しい物を使いこなすには研修が必要と思うが、学校現場の意見はどうか。
- 委員 本校の様子を伝えさせてもらいながら意見を述べさせていただきたい。教職員のスキルと指導力について、教職員が思っている以上に、しばらく経つと子ども達は使いこなせるようになってきている。ICT を使う大きなポイントかと思う。教職員が教職員を指導して、やっと使えるようになり、子ども達にタブレットを活用して、分散登校や休校中になりタブレットを持ち帰るようになると、子ども達の方が、我々の想像以上に使いこなしていた。写真を撮り合ったりなども、リテラシーの面で学校では注意するが難しく、写真を他の物に活用していたり、学校でも気を付けるが保護者も交えて話したことがある。教員の指導力とスキルアップと合わせて、子ども達のリテラシーを注意していかないと大きな課題が出てしまうと感じている。ただ、やはり利点が大きく、個別最適な学びということで、自己に応じたドリル学習など本当に子ども達は自主的に喜んで取り組んでいる。個別最適な学びを考える上では、教育の ICT 化は積極的に取り入れなければならないと感じている。ただ、事務局の説明の中であつたとおり、個別最適な学びには最適であるが、個人の学びに終始してしまうと、片手落ちになってしまうので、ICT を活用して、いかに協働的な学びを取り入れていくかが大きなポイントと思う。協働的な学びを取り入れると我々が想像している以上に子ども達が活用できるので、やはりリテラシーの問題が出てくる。

○委員 本校の現状で言うと、学び合いということで、子ども達同士、先生と子どもの学びを進めている。そのツールでタブレットを活用している。校内では、インターネット上の仮想の教室を作る。その中に先生方が作った教材をアップロードする。子ども達は、授業でアップロードされた教材を自分のタブレット端末でクラウド上に保管する。子どもは問題を解いて答えをアップロードし、それぞれの回答に対し、子ども同士で意見を交換している。美術では、鑑賞の授業で絵を何枚かアップロードする。以前なら、教室の前に写真を貼り、この絵はどんなことを意味するのか、先生が子ども達に聞くスタイルだが、個々のタブレット端末上にあると、絵を大きくしたり小さくしたり、色合いを確認したり色々出来て、子ども達の視点で鑑賞ができて、鑑賞結果を子ども達同士が意見交換をしている。音楽だと合唱コンクールがあるが、今までであればテープレコーダーでCDに録音したものを子ども達が聞いて音を合わせるということになるが、今はオンライン上に先生がピアノで伴奏した音源をアップロードする。子ども達は自分のパート部分を各自のタブレット端末に保管して、家で練習をしている。色々なやり方があって、活用している。電子教科書の実証実験が進められており、本校は理科と社会の電子教科書を活用している。今の段階は紙の教科書と違いがないが、動画や音が出たりとか、分からない所に線を引くと、そのままインターネット検索で調べることが出来る。子ども達が教科書を読んでいて分からなくて引っかかった時、先生に聞きたいけど聞けない時に、線を引くとインターネットで調べることが出来る。加えて、学びを定着させるために、中学校でもドリル学習を始めている。例えば、中学校2年生分の紙ベースのドリルを配付したら、子ども達は配布されたドリルしか出来ない。しかし、インターネットのドリルだと、学年を戻ることが出来る。中学校2年生の数学を解いて分からない場合、小学校のこのあたりを確認しましょうという風に個に応じた対応が出来る。小学校まで戻って自分で問題を解き、もう一回中学校2年生の問題に戻ることができ、学力の定着を進めている。一方、家庭では、インターネット環境が無い家庭もある。その場合は家では出来ないのもので、学校や公民館で対応してもらったりしている。

その他、本校で考えているのは、授業のライブ配信を考えているが、カメラを黒板に向け配信するのはいいが、普通の教室の授業と画面越しのオンラインの授業のやり方は違うと先生方は感じており、ただのライブ配信で垂れ流しするような授業はやっていない。ライブ配信をやると想定した場合の課題を洗い出しているのが現状。先ほども意見があったとおり、情報リテラシーの問題、モラルの問題等色々あるので、顔が見えない関係の中でどのような考え方をしたらいいのかというのを子ども達と一緒に考えている状態。まだ手探りの段階で進んでいるが、先生方も子ども達も反応が良い。GIGA スクール構想による一人一台端末によって、ICT化が進んでいくと考えている。

○会長 教室の風景が思い浮かべられたと思う。かつての風景とは違う所が学校で行われているとご紹介いただいた。そういった方向が全学校で広まっていくと良いと思う。他にご意見いかがか。

○委員 両委員から現場の声を聞いて理解できた。話がずれるかもしれないが、教育の ICT 化であるが、教育にとどまらず、市役所や、この審議会がどこまで ICT に精通できるかどうかという部分も問題だと思う。市議会の話をすると、2 年前にタブレットが議員に配備された。先輩議員に聞くと、だいぶ前からタブレット端末を導入したほうが良いと言っていた中で、2 年前に配備された。執行部と議会両方で導入しないと意味がないという部分があったが、その当時の執行部はタブレット端末を導入することなく、新たな市長の後に執行部もタブレット端末を導入した。コロナ禍になる前に、愛媛県西条市に視察に行き、市役所全体で Society5.0 スマート社会に向けて全体的な ICT 化を進めていた。この審議会は教育分野だが、全体的に考えなければ出来ない事ではないかと思う。

○委員 先ほどの学校の取組について、以前小中学校 PTA 連合会の会長研修会で講師を務めていただき、勉強させて頂いた。お話を聞いて本当にびっくりしたのは、先生にとって個々の子どもの現状の把握というのが、ICT によって非常に分かりやすくなるというお話をいただいた。この子どもはこの問題は理解している、この子どもはここはちょっと理解していないというところまで、データで抽出できるという話は素晴らしいなと思った。それと先ほどから出ている情報モラル等について、子ども達の使い方、これに関しては、親もしっかりチェックをしながら対応していかなくちゃならないのかなと強く思うが、我々の世代がこういう機器に疎く、得意な方が少ないかと思う。PTA 連合会でもリモート会議とか、子ども達が使っているところのそばにいくような研修を行っているが、親がシステムに対応していくのが難しいところも感じる。

また、心配されるのが ICT を通しての教育ということに対して、専門の知識を学校の先生が習得していかなければならないというのは非常に大変な事ではないかなと思う。今までの対面での教育だけではなく、この ICT 化の指導というものを新たに習得していかなければならない。

それに伴って学校間での差が出てしまうかもしれないという懸念がされるところである。

○委員 GIGA スクール構想というのがコロナ禍において、前倒しになったということで学校としてはあわただしく準備の方を進めているのだと思う。

これについては、教育の ICT 化というのは、日本は世界的に見ても遅れていると、度々指摘されてきたわけだが、このピンチをチャンスに変えて、本当に教育の ICT 化が進めば個々の対応が出来て、いろんな意味で教育効果が上がると思う。先ほど委員の話のとおり、結局は先生方のスキルアップや指導力が必要不可欠の状況になる。したがって、研修等含めて先生方の負担も多くなると思

うので、環境としては学校支援員という形で多く配置するとか、何か先生方の負担が軽減されるようなそういった支援がどうしても必要と思う。

現状として、先ほど委員がおっしゃるように、それぞれ先生が教材開発なり、プログラム開発して、それをクラウド上に置いているということは非常に良いことだと思う。

共有化すること、これをさらに広げて市内全部の学校において、それぞれの先生が開発するのではなくて、共有化するような、そうすることにより、先生方の負担が軽減するような体制が出来れば、教育効果が上がると考える。もう一つは、各家庭のインターネット環境というのはやはり違うと思う。話を聞いて、インターネット環境が無い子は学校や公民館に行ったりすると話があったが、どれくらいの割合でインターネット環境が無い子がいるのかお聞きしたいし、出来れば、各家庭のインターネット環境の援助が出来るような、予算が絡むのでなかなか難しいと思うが、そういう方向にいかないと一人一台端末の本当の効果が得られないと思う。

○副会長 教育の ICT 化、GIGA スクール構想について、そういう方向に向かうのは賛成である。今、皆さんの話を聞いても、流れがそういう方向にあった。経済的なこともあり、世界の方でも遅れているということもある。

ただ、本年9月下旬だったと思うが、GIGA スクール構想の一人一台端末について、子ども達がタブレットを持ち帰り、SNS でいじめに使われたと報道された。そうならないように、もちろん教員もそうだが、保護者の方々もそういうことには是非注意してもらいたい。

昔読んだ雑誌に、「情報」という言葉は誰が訳したのかっていうことがあった。調べたら森鷗外でした。明治の時代にいろんな外国語が入っている中で、「情報」という言葉に私は訳したというのが、森鷗外でした。「情け」である。愛情とか友情とか色々な情緒的な心の大切な部分を森鷗外は訳した。明治の文豪はすごいと感動した。

今の情報は下手すると相手をいびったり、いじめたり、あるいは誹謗中傷もあり、おかしいと思う。森鷗外の言うように我々日本人みんなが大切に使っている「心」を忘れることなく、教育の ICT 化に進めて欲しい。

○会長 たくさんの意見を頂いた。それでは（１）教育の ICT 化について、皆さんから頂いた意見を簡単にまとめさせていただき、後で答申を作る段階で調整させていただく。現段階では大きな方向性を考えてみたい。

三つあると思う。ソフト面とハード面があるが、ソフト面で二つ、ハード面で一つと思う。

ソフト面の一つ目は子ども向けの話。やはりキーワードとしては「効果的な活用」、当たり前の言い方だが、授業・学習における効果的な活用に向けた検討が大事であろうとまとめられると思う。

それから校長先生から出していただいた基礎・基本から発展まで対応しているやり方とか、ドリルとかマルチメディア等、多様な学習方法を進めつつあるので、それらを効果的に子どもたちの学習を促進するために、効果的に使う方向を必ず押さえなければいけないということが言える。

国の方向で出された個の学び、個に応じた最適化された学び、それに ICT は沿うものである。協働的な学びというキーワードもいただいた。「きょうどう」というのはいろいろな種類があるが、どれも必要である。

個の学び、協働な学びに向けて ICT 化活用を進めていくということが一つ目。二つ目はソフト面のことで、先生向けの話。

先生と子どももそうだが、使い方についての教育なり研修を考えるということ。先生向けについては、研修である。先ほど意見があったスキルアップを図っていく、そのためには支援員の活用という意見もあった。地域の方で専門知識がある方、先生の OB など、この場では支援員という言い方をするが、地域人材の活用も視野に入と思う。先生のスキルアップを支えていく。子ども達のリテラシー教育・モラル教育も併せて進める。ユーザーとしての使い方をきちんと押さえていく方向が二つ目の方向性かと思う。

三つ目はハード面である。機器の導入がまず全般的にプラットフォームとして揃わないと話にならないので、全体として教育の環境を整備する方法をきちんと議論してほしいということになるかと思う。これには学校間で差があっては良くないので、同じような環境を整えて、皆が同様なレベルに ICT 活用に到達できるようにすることがハード面としての方向性かと思う。Wi-Fi は各論なので、答申の際に協議したい。

ソフト面で二つ、ハード面一つとしたが、皆さんどうか。ご意見いただきたい。ご意見が無いようなので次に進みたいと思う。

【観点2 ユニバーサルデザイン】

○会長 教育の考え方である。障がいの有無、その他外国籍とか、色々な事が発端となって、誰もが学びやすい方向ということがユニバーサルデザインの視点になるが、これに関して足利市としては、どういう方向が検討する重点ポイントになるのか、意見をいただきたい。

階段のスロープや手すりを始め、ハード面、建物の環境や空間の整備という部分と先生方が学級経営を進める中で、どういう事を対応するか。ソフト面であるが、両方から意見があると思う。先ほど電子教科書という話があったが、現在の教科書は文字のフォントも読みやすいようにだいぶ変わってきた。以前は教科書体であったが、目に優しいという部分と形にこだわってしまう子ども達がずっと立ち止まらないように、読みやすさでユニバーサルデザインの教科書が出ている。これも配慮の表れかと思う。

- 委員 もしかしたら内容がずれてしまうかもしれないが、障がいを持つ子どもの親から最近相談を受けた。もうすぐその子が自分の学区の小学校に入学するにあたり、その地域の学校に入学するか、特別支援学校に通わせるかっていうところで非常に悩んでいた。
- 具体的に言うと、その子にとって、これから通う学校がいろんな面で環境が整っていれば一番支援も出来ていいんじゃないか、そこは誰でも分かるが、その保護者が悩んでいたのは、今の子どもの状態なら自分の学区の小学校に入学できるだろう。だけど、もし途中で子どもの様子や体調が変わったりしたら特別支援学校に転校もできる、という説明を受けたそうだが、逆に子どもの様子を見て、最初は特別支援学校に行った方がいいとなった時に、もし子どもの体調が改善されても、元々行くはずだった小学校には行けないそうである。今の制度について詳しくないが、その保護者に言わせると、子どもの体調が良くなったら、同級生がたくさんいる自分の学区の学校に通わせたいが、それが出来ない前提で初めに選択肢を与えられても、それは困るなということで悩んでいる。障がいの有無というところがあったので触れたが、観点とずれていたら申し訳ない。実際そういうところで非常に悩んでいる保護者もいるようなので、制度的にどうなのかというところを、意見させていただいた。
- 会長 個別の回答は持ち合わせておらず分からないが、先行きが明るくないとちょっと良くないと思う。制度上どうしても対応できないということであれば仕方ないのかもしれないが、子どもたちの可能性を高めていくのが大人の役割であり、どこかで何か手を差し伸べた方がいいと思った。全くずれていない。このような色々な背景を持った子どもがいた場合、その子どもを囲んで、みんなでどういう風に学校を進めていくかということであり、ユニバーサルデザインはその考え方である。
- 委員 施設・設備の整備のユニバーサルデザインということなので、施設・設備の面の方から考えてみたが、障がいの有無について、身体的障がいの場合、非常に分かりやすいと言うか、エレベーターをつけるとか、スロープをつけるとか、段差を無くすとか色んな所がすぐ見えてくるが、心の問題とか知的障がい、あるいは情緒的障がいっていうものがあるが、そういった子どもたちが居られる場所、今はそれを前提にした部屋っていうのは、今までの教室をそれに代えて作っているというような部屋だと思う。そういう子たちが、落ち着いて静かに周りに邪魔されずに、落ち着けることが出来る部屋っていうのも、これからは意図的に設計していく必要があるという気がしている。ユニバーサルデザインの中の障がいっていうところに、そこにも目を向けていく必要があると思う。
- 委員 施設の整備ということで、毛野小学校にはエレベーターが設置されており、ユニバーサルデザインになっていると思う。そういう面で先進的と思っているが、次回の視察先に毛野小学校が無い。経験の中で話をするが、足の悪い児童が毛

野小学校ならエレベーターを使って学校内の移動ができるということで来られた。その子も一生懸命頑張って卒業の時には車椅子無しで移動ができるようになった事例を見た。なるべくそういう特別支援学校みたいなどころでなくても、本人の希望が他のお友達と一緒に教室で同じ学校で学びたいというようなことがあれば、設備が整った学校で学べると良いと思う。

○副会長 昔の話が出てきたが、私が転勤した時には毛野小学校の新校舎ではエレベーターが既に設置されていた。エレベーター設置の目的は、ダムウォーターとして使う事。給食の際に色んな食器・食材を、上げたり下ろしたりすること。もう一つは障がいのある子どもの為に設置していただいた。他にも、来客の中には、お年寄りやお体の不自由な方、そういった方に利用してもらうというような条件で、他の子ども達は使わない約束であった。あるクラスの例になるが、障がいのあるお子さんがいて、字を書くのがたどたどしいが、頭の回転は良くて、かなり理解していた。その子のクラスは担任一人では無理なので、今で言う学習支援員にもサポートしてもらった。教室の移動や他の場所に移動するときも、学習支援員と共にエレベーターを利用していた。自分も時々行って遊んだり、いろんな話をした。もし、そういうお子さんがいるという時には、施設のエレベーター設置は高額なお金がかかると思う。あわせてサポートする先生が一人、二人必要とかそんな条件が重なってくる。どのお子さんも障がいがあるとなかろうと一つの学校に一緒に行けるとするのは理想だと思うが、そこまでには膨大な予算、非常に難しい問題が絡んでくる。私はその児童から学ばせてもらったことがいっぱいあった。

○委員 毛野小学校とお聞きして、確かその児童はのために引っ越してきたという新聞記事が載っていたので、私も記憶にある。毛野小学校自体も施設は整っているが、先生方の意思と言うか、身体障がいは見てわかるので対応できるが、心の方の不登校等に関しては、実際保護者としてあまり理解を得られなかったというのがここ数年あった。通えない子どもに関して、練習してないから卒業式は欠席じゃないですけどできないとか、先生方による心のケアの方法が、もうちょっと保護者としては寄り添っていただきたいというのが実際にあった。施設の面もあるが、毎回、先生の研修という話になってしまうが、先生方にも勉強していただき、保健や養護の先生だけでなく、学年主任や担任の先生も、そういう子ども達の心のケアについて学んで頂ければと思う。

もう一つ、うちの子どもの話になるが、体育祭で腰を痛めてしまい通院をしていたが、学校の椅子に関して、腰が痛く座りづらいというのがあった。現状以上の椅子が用意できないということで、どうにか校長先生をはじめ皆さんがどうにか座りやすい椅子を工夫してくださったが、限界があった。お金が関わる話だが、体が大きい子は小さい椅子に座ると、座るだけで体が窮屈になってしまうので、全員の子に合ったイスは無理だと思うが、多少でも考慮していただければと思う。

○委員 「合理的配慮」という言葉が一番分かりやすいと思うが、前の学校の話になるが、本当に配慮しなくてはいけない子が特別支援クラスに入学した。その子が入ることによって、子ども達もいろいろ考えたり、先生方も考えたりしたが、その時は、特別支援のクラスの担任と保護者の話し合いがたくさん行われた。ここは成長している、でも、ここの所は成長できていない。この子が今の小学校にいた場合に、この子はどこまで伸びるかという視点で担任と保護者が話し合いを進めていた。その結果、2年ほど在籍したが、この子がさらに伸びるためには特別支援学校の方が良いのではないかとということで、転校という形になった。やはり、先生方が一番思うのは、その子がどう伸びるかっていう部分で、色々な配慮していくということがある。それからもう一つ、中学校ではスクールカウンセラーが配置されている。本校のスクールカウンセラーは色んな所に視点を置いて、細かいところを見ていただいている。子ども達だけでなく、先生方にも「体調どうですか」も含めて、お話しをしていただいている中で、「こういう見方をすると、この子どもは伸びるのではないか」というアドバイスがあり、スクールカウンセラー、それから児童生徒相談員、そういった方々を配置していただいていると本当にありがたいと思う。問題を解決するというより、前向きと言ったら変だが、先生方もこういう風にやっていけばこの子がもっと伸びるのではないかとという方向で考えることができています。

それから施設については、一番問題なのが、表現は変だが、キレやすい子がいる。教室を飛び出してしまう。その子がどこに行けばいいのかっていう事で、相談室があるかと思うが、相談室も他の子ども達でいっぱい状態。クールダウンする部屋が必要だが、どこでもいいわけではない。大人の目が無いと次の問題が起きてしまうので、先生方の目がある、でもちゃんと落ち着ける場所が良いということで、荷物を整理して個別のブースを作ってみた。そのブースに10分、20分いるだけでも教室に戻ることが出来たり、約束を決めて、落ち着いたら教室に戻ったりしているのが現状。

本当に施設面、それから先生方との関わりの部分でも、学校も今のところ合理的な配慮という点で進めさせていただいているのが現状なのでご承知いただきたいと思う。

○会長 まだまだ意見があるかと思うが、まとめさせていただきたい。活発に議論いただき、方向性を確認すると、二つあるかと思う。

一つ目、施設面なので、教育的ニーズに応じた環境を整えていくことが大切であろうという方向かと思う。環境の中には、学習環境とか生活環境とか分けられるので、また答申の頃に考えたいと思うが、教育的ニーズに応じた環境を整えていく。「整えていく」の前に「意図的に」を入れた方が良いかと思った。それと「合理的配慮」というキーワードをいただいた。各論で言えば掲示物や板書、机のサイズもあるのでそれを含めて、学習環境・生活環境、子ども達が過ごす学校の環境を整えていく方向があると思う。現状ではスロープ、階段手

すり、エレベーター等、進んでいるものもあると思うが、これらを含めて環境を整えていくことも大前提に考えて欲しい。

二つ目はユニバーサルデザインが項目なので、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学級づくり・学校づくりに努めていく、という方向かと思う。色々な背景を持ったお子さんに対しては、学校として、学級として両方取り組む必要があると思う。色々な事例があると思うが、学校として学級として先生一人ひとりの問題にもなる。これは施設の議論だが、先生、学校のスタンス・教育のスタンスに関わるので、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学級づくり・学校づくりに努めていく。こちらにも合理的配慮が加味されると思う。施設の事なので個別に言えばきりがないので、大きく二つの方向で答申の下地としてさせていただきたいが、どうか。意見は無いようなのでとりあえずこのようにまとめさせていただく。

【観点3 安全・安心な学校】

- 会長 安全・安心な学校について、校舎や体育館の耐震、防犯カメラの話などの現状が述べられている。この後に老朽化の話があるが、安全で安心な学校を作るためにはこの辺りを整備してほしいという意見があればお願いしたい。
- 委員 設備とは違うのだが、先日の夜、大きい地震があり、久しぶりに緊急地震速報が鳴った。その時に感じたのだが、東日本大震災の時はよく鳴っていたので、あの音が鳴った時にすぐ地震だというのは分かったが、今回は鳴った時に、この音何だっけっていう感じがした。すぐに動けず、考えていたら揺れ始めた。子ども達にもあの音を覚えているか聞いたら、何となく覚えているとのことだった。NHK ではたまに流すらしいのだが、緊急地震速報のような音も、定期的に学校で放送して、この音が鳴ったら避難しなくちゃいけないという訓練をやった方が良かったと思った。そうすれば、1秒でも2秒でも早く動ければ状況が変わるかもしれないので、その方が良かったと思った。
- 会長 22時過ぎで、夜遅くでもあり、びっくりした地震であった。大事な意見だと思い聞いていた。他の項目もそうだが、今は建物の整備の議論だが、何の為にそういう設備を整備するかっていうことで考えると、今の話はまさに命を守るために私達が、身につけなければいけないリテラシーかと思う。その部分をこの設備の中で、うまく活用できるような設備を整えるということになるかもしれない。
- 委員 資料1の課題に書いてあるが、10月においてもこんなに暑い。恐らく子ども達は大変な思いをして学校で勉強していると思うが、全ての小中学校にもエアコンが設置され、弾力的に使用できていると思う。我々が答申する中で、ぜひ特別教室へのエアコン設置をぜひお願いしたい。これは、なかなか難しい所でもある。トイレの洋式化についても、52%程度も進んでいるというようなこ

とが書いてあるが、更に進めていただきたいという思いから、その2点をお願いしたい。

○会長 10月でも、まだエアコンを稼働している。気候の変動である。もう10月はエアコン使わないという議論は昔の話で、今の子ども達には通じない。

○委員 ちょっと違うかもしれないが通学路について、登下校に子ども達が通うので多少整備されるというか、草を刈るとか明かりをつけていただくとか、車が通る箇所を歩くので、何かしらの対策を通学路の方も考えていただきたい。加えて、校庭について、水はけが良い学校ならいいが、水はけが悪いと運動会が延期になったり、他の学校では運動会をやっているが、こっちの学校では運動会を延期したりしているというのがここ数年あったので、校庭についても保護者として整備をお願いしたいと思う。あと、特別教室にエアコン設置が出来ていないとのことだが、勉強不足で申し訳ないが、理由を教えてください。

○事務局 全小中学校の普通教室へのエアコンは設置済みであるが、特別教室については、音楽室は音が出る関係で部屋を閉め切るのでエアコンは設置済みだが、特別教室の中で、特に理科室への設置が足利市は遅れている。なぜ遅れたかということ、安全・安心というところで、平成23年の東日本大震災をはじめ、熊本地震、大阪地震もあり、安全・安心という事で、まず校舎の耐震化を進めた。全部の小中学校の校舎を耐震化した。それから大阪の地震では、ブロック塀が原因で亡くなられた児童がおり、ブロック塀の改修も進めなくてはいけないという事で、そちらの事業にも着手した。本来であれば、普通教室のエアコン設置の後に、理科室等の特別教室へのエアコン設置に着手したかったが、安全・安心の学校ということで、他の事業を優先し、特別教室のエアコン設置が遅れたのが現状である。

○委員 今まで出ていた意見と重複することもあると思うが、学校というのが教育施設以外の役割があり、避難所は避けて通れないと思う。資料に書いてあるように、足利市もたくさんの努力をして、色々な対応を取っていることが理解できる。その中で、地震の心配もあるが、水害や土砂崩れの心配もある。色々な物が1階に置いてある避難所だと非常に心配である。それで本当に大丈夫なのかと。防災マップを見ると、色が塗ってある部分に色々な学校が建っている。水が来た時に、色々な設備、電源設備等も含めて地上階にあると、それで本当に避難所が機能するのかなど、非常に心配している。それと、避難するとなると、足利市にも外国の方がたくさんいる。避難してきた時に、ユニバーサルデザインとも関係するが、もちろん対応する人もそうだが、施設・設備の表示だとか、そういうことも含めて本当に大丈夫なのかなという部分もあり、これから考えていかなくてはいけないと思う。教育設備であると同時に、一時的には学校が避難所になる事を考えると、色々な想定をしなくてはいけないと思う。先ほど意見があつたが、校庭へ車で避難する

人がほとんどだと思う。避難してきた後、校庭が酷い状態かなと思う。運動会のこともあるが、そういった面を考えても校庭の水はけと言うか、コンクリートにするわけにはいかないが、これも考えていくべきであると思う。

○委員 学校では、安全・安心ということで教員も1月に1回、必ず安全点検として、校舎内と校庭と遊具など、素人ではあるが全員で点検している。点検した中で不具合が見つかり、教頭先生と技能員が中心になって補修作業を行い、それから学校管理課にも連絡し、補修作業をしている。ただ教員は素人なので、遊具がどの程度危険なのかとか、校舎内の不具合が見つかった時、どの程度危険なのかということがなかなか判断つかないこともあり、避難所になった時とか、それから地域の方が野球やバスケットボールなど色んな場面で学校施設を利用される時、本当に安全なのかと心配してしまう面もある。学校の教員も点検をやりながら、自分達も心配している現状もある。

○会長 この辺で方向性を確認させていただきたい。上手く整理できないかもしれないが、方向性は三つあるかと思う。一つ目は安全・安心に向けた整備。安全・安心に向けた学校環境の整備を進めていく、これが大原則である。その中には各論として、エアコンの設置とか、トイレの洋式化など色々ある。これは、どういうニーズが高いかということに対応すると思うので、答申の際に考えることとしたい。学校環境と言った時には当然校庭をはじめ通学路まで含めて環境というのは、真ん中に何かがあってそれを囲むものが環境であり、環境というのは何重構造にもなる。学校の周辺まで含めた環境、安全・安心の実現に向けて整備していく方向と思う。二つ目は避難施設としての視点を大切に検討してほしいということ。表示の問題とか、学校の設備・所有物が水に浸かってしまう1階にはあってはいけないとか色々意見をいただいた。また日頃の点検を継続していくということ。これは一つ目の方向性にも関わるが、点検を怠らないということかと思う。三つ目の方向性は安全教育かと思う。地震の話が出ていたが、先生をはじめ、そこにいる人全員、先生・子どもを含め、自分の命を守るためにはどうすればいいのかという心構えからスキルの部分も含めて、安全教育を続ける。これはそういうことが可能な施設・設備でなければ出来ないのも、施設・設備の議論に含めるべきである。三つ目は安全教育と、対応させた施設・設備の方向を議論して検討してほしいということによろしいか。意見は無いようなのでこのようにまとめさせていただく。

【観点4 学校図書館の環境整備】

○会長 蔵書の数とか利用の率とか色々説明があったが、学校の中の図書館がさらに良い方向に使ってほしいとみんな願うところ、これは異論がないと思うが、そのためにはどういう方向が大切なのかということ。ここは施設・設備の議論であ

りつつ、学校の図書館はこういう風にあるべきということと、ソフト面とまた同じ面が言えるかと思うので、どちらの面からでも意見をいただきたい。数日前の新聞だったが、高校生のひと月の読書量0冊が44%であった。少し寂しい。それと同じ記事だったか、別だったか、先程のICTにちょっと逆らうような言い方の記事になるが、紙で読んだ方が色々な思考とかが高い子どもと相関があるとあった。難しい。タブレットが大きい画面になって、とても読みやすくなっており、それで読めば頭に入るとは思うのだが。何か紙の方が一段上と言われると、それも頷ける。だからと言って図書館はやっぱり紙の本をいっぱい買えというのも短絡的な話になってしまうので、棲み分けだと思う。まさに紙媒体の本を収納している図書館だが、そのあたりで意見どうか。このまま紙の本をいっぱい買えば良いかというと、今いただいたように検索がしにくくなる。利用の仕方とか、それからタブレットとの併用も必要な視点かもしれない。図書館についての意見はいかがか。

○委員 やはり図書館を利用するということで、子ども達が本に触りたいとか好きになるとかという、図書館に向かうまでの準備が必要だと思う。うちの子は図書館が好きなので、結構通っている。あとは高校生でも朝読と言って、1冊持って行って読みましょうということがあったり、多読賞というのも取り入れている学校もあるが、それ以上に子ども達が図書館に行くというより、本が好きになるという状況を作っていただきたいと思う。家庭でも本を読んだりするのが、先ほども話があったように、ICT化じゃないですけどもタブレットでいろいろと見られたり、検索するとスクショも見えるという世の中になっており、わざわざ学校の図書館に行かなくても、家で読めてしまったり買えてしまったりするので、図書館に行くという気持ちになるような環境づくりも必要なのかなと思う。毛野小学校は、一段上がって座って見られる場所もあり、子どもが行きやすいような環境づくりが必要。

○会長 施設の作りと気持ちと両方。そのとおりである。

○委員 図書館の整備に関しては、小学校においては各学校ともかなり力を入れて、保護者も図書ボランティアとして、各学校にいらっしゃると把握をしている。本を読むというのは、小さい頃から大きくなると、だんだん読まなくなってしまうのかなというような感じがあり、小さい頃だとみんなと一緒に図書館に行つて本を借りるというようなことがあるが、高学年になるにつれて、本が好きな子、そうでない子という区別がはっきりとしてくる。先ほどお話があった、図書館に行きやすい環境づくりというのもすごく良いと思う。読みやすい、読ませやすい、何を読んだら良いか分からない子もいる。例えばBEST10ではないが、この本面白いよというような、情報提供をきちんと発信し、興味を持たせる。この本はそんなに面白いのか、じゃ自分も読んでみようかな、普段本を読まないけれど読んでみるかなというような、そういう気持ちにさせるような働きかけを考慮していくというのも一つの考え方なのかなと思う。中学校、

高校の図書館を存じないのだが、中学校においても図書の内容は充実しているのかと思う。あとは先ほど会長が言われた、タブレットとペーパーとの割合、対比とか、この辺をどういうふうに活用していくかというのが、課題になると感じている。

○会長 まさにその通りである。発信、ガイド役が必要。だんだん自立して自分から読めるようになるというのが理想ではあるが。最初はなんでもそうだが、伴走者が必要。

他はどうか。学校の図書館だが、外の図書館の連携とかいろいろ思い浮かぶところである。

○委員 図書館整備について、前任の学校で実施していたことであるが、毛野南小学校の図書館は、実はPTAのボランティアの方が8割、学校の教員が2割という感じで運営していた。図書館ボランティア、読み聞かせボランティアというのがあり、小学校でよくやっている朝の読み聞かせ、それから図書館整理の図書ボランティアというのがある。図書ボランティアの方達が環境整備ということで、普通の学校の図書館だったもの大改造をしてくれて、本当に読みやすい、子どもが来たくくなるような図書館に整備をさせていただいた。蔵書も本がいっぱい入っている方が素晴らしい図書館というようなものが以前はあったが、毛野南小学校の図書館は、図書の棚は入っていても7割。入っていない時は6割くらいしか入っていない。スカスカだが、棚に入っている本は長くて3年、それ以上になると各教室の方へ分ける。どこに何の本が入っているかというのは全部把握しているので、もし古い本が読みたかったら、あの教室にあるから読めなさいと伝える。子ども達は古い本を読まない。なので、図書ボランティアの方達が、もうこの本は読まないか、図書館担当教員と確認して、この本であれば3年生あたりに置いておいた方が良いのかなとか、5年生くらいに置いた方が良いかなという風に分けてくれる。

そして子ども達にはいつも新鮮な本というような形になってきている。毛野南小もそうだが、何校かは共通の図書のアドバイザーがいる。この方がやっているのが、図鑑を読みこなすということで、子ども達が慣れてくると図鑑の絵を見ただけでストーリーを作ることでもある。そんな図書館のやり方もあるので、毛野南小の方は図書館指導員も市から派遣していただき、合わせてPTAのOBとか、そういう方が図書ボランティアとして活動してくれて、子ども達にこんなふうなことをやると本を読んでもくれるのではないかなということを考えながら活動してくれている。多分10月はハロウィンだと思う。ハロウィンの飾りがいっぱいあって、ハロウィンの本が並んでいる。9月はお月見で、月の特集を出したりするので、子ども達が行きたくなる。お父さんお母さん達が、こんな風になると子ども達の感性とか色々なものが豊かになるのではないかなという方向での飾り付け等をしていただき、良い図書館になってきている。

○会長 校長先生のお話を聞くと絵が浮かんでくる。色々な図書館の使い方、もっともとお聞きしたいが、まとめさせていただく。

方向性について、こちらも同じ言い方になるが、一つ目は、子ども達が本を好きになる環境整備。当たり前であるが、図書館に行きたくなる、そういう気持ちにさせる、本が好きになるための図書館の環境づくりを進めるという方向が一つ。そのための検討・整備ということが、最後に委員からあったように、季節に合わせた飾り付けなども、各論だがソフト面がきちんと揃わないと動かないので、それに合わせた棚の配置から何から必要になると思う。子ども達が本を好きになる環境整備を進めていくことが、一つ目。

二つ目は、一つ目のソフト面を進めるための地域人材の方との連携。図書ボランティアを始め、色々な方の、先生以外の方の関わりを密にして、そして学校の図書館が子ども達にとって良い場になるように動いていただきたい。そのための設備・環境を整えていくということ。

三つ目は、ICT 機器との両立を図る整備を図書館としても視野に入れてはどうかということ。図書館は紙の本が中心だが、一部映像とか入れるところもあると思う。今後 ICT を使うという方向と、紙を中心とする図書館が両立するという方向を、学校図書館の環境整備の中の一つの視点として議論したらどうかというのが三つ目。

アメリカに授業を見に行った時の記憶だが、15年か20年近く前だが、ノースカロライナ州の中学校、小学校を周った。ある中学校で教室の移動途中に、図書館の前を通った。図書館だが、ライブラリーと書いてなくて、メディアセンターと書いてあった。メディアセンターなのかと校長先生に聞いたら、「そうだ。ライブラリーの看板は一昨年外した。」と言われた。メディアというのは、何かと何かの間であるので、情報を学習者との間として整備するという意味を込めて、メディアセンターとしたようだ。今では新しくないが、検索機能、発信機能を充実させるために看板から変えたのだというのを今思い出した。皆さんの意見を三つの方向としてまとめさせていただいた。特にご意見が無ければ次に進めさせていただく。

【観点5 学校施設の老朽化】

○会長 (5) 学校施設の老朽化についてである。これも基本は、結論は一つというか、こういった方向のために、設備をこういうふうと考えてほしいという意見をいただけるとありがたい。先程のトイレの話も関わってくるし、プールとか校舎、いろいろあると思う。学校施設老朽化と言うと、ある場所の改修もそうだが、全体の改修となると予算に関わるので、意見を出したところで果たして実現されるかという難しさも立ちはだかるが、やはりそれは言い続けなければならない。学校施設の老朽化について、こういうところを議論してほしい、あるいは検討を進めてほしいという風にご意見をお願いしたい。

- 委員 みなさん言いづらいかと思うので、あえて保護者の立場として言わせていただくと、老朽化が進んでいるのであれば、維持管理とかでなく新しい校舎にしていきたいなという思い。先ほどからユニバーサルデザインとかいろいろな設備が現代にあっていないということで言われており、老朽化が進んでいるのであれば、難しいと思うが、あえて保護者の立場としては、新しい学校にしてくださいということかと思う。個別部分を直すとか耐震化とかではなく、危なくないように、子ども達が安全に学校に通える校舎を作っていただきたい。
- 委員 老朽化は、今の意見とほとんど同じだが、これから長い目で見て行った時に、足利市もどんどん子どもの数がこのまま増えるという気がしないので、古い校舎全部を新しくするというのではなくて、少し再編も考えてやっていったほうが良いのかなと思う。全部新しくするというよりは、どこかを再編して、ここは新しくするというのなら、少しはハードルが下がるのかなと思う。それとトイレの洋式化のことだが、これは子ども達とアウトドアに行った時に、今の子は割と和式トイレが利用できない。見たことがなくて使い方が分からない。うちはまだ家に和式が残してあるが、うちの子が、和式で排便すると言ったら、座ってしまった。息子の友達などもキャンプに行った時に、やっぱりアウトドアで海とか山とか行くと、まだ和式が残っているので、それを目にした時に、トイレに行って戻ってきたからどうしたのかと聞いたら、トイレが変な形をしていて使い方が分からないといったことがあった。洋式化も良いが、まだ世の中全部が洋式化になっておらず、今年の夏に行ったお寺では、トイレの水を流すのに上からロープがあった。流し方が分からないというので、ここに紐があるのだから引っ張れば良いと教えた。分からないと我慢してしまう子がいる。使い方が分からないから、和式しかないから、このトイレではできないという子がいるので、洋式化も良いのだと思うのですが、和式というトイレはこうやって、こう使うのだよというのも教えておいた方が、キャンプとか行った時に、我慢してしまう子が少なくなって良いと思う。
- 委員 今の委員のお話を聞いて、確かに現実にあった。MBS から、清掃員がああの公園には清掃に行かない、汚くて流してくれないのだから行かないと相談があった。それで私も何度か行ってみた。そうしたら、今、委員がおっしゃった紐を引っ張る形式であった。もう一つは鉄管の途中にバルブがあって、それを押すタイプであった。子ども達はその使い方を知らない。なので、MBSの方に使い方を絵で描いて、これを引っ張ってくれとか、このバルブを押してくれといった掲示をお願いした。それから、MBS 側に聞いてみたら、お陰様であれからありません、綺麗にちゃんと流してあったとのこと。やっぱりそうした教育が必要だと思った。やっぱりキャンプとか体験する中には、私なども教えているが、色々な場面で少しずつでも教えていかなければいけないと思う。
- 委員 学校の老朽化だが、現実には迫っている大変な問題という風に認識をしている。先ほど別の委員さんがおっしゃった通り、建て替えて新しいものにする。これ

が一番望ましいことだというのは分かるが、現状を考えると、かなり不可能に近いということを踏まえて、やはり今現場にある小中学校33校、今後これを維持していくのかというところも踏まえて、先ほど別の委員さんが言った、全部直すというのは、ちょっと難しいのではないかと、その通りだと思う。だから、色々なこと、子供達の減少も踏まえて、市内を東西南北と中央に拠点の学校というのを定めて、最低限、そこをまず中心に整備をしていったりとか、例えば今後この地区は来年入学する子どもがいないという学校も現状あると聞いている。そういった所へお金をかけて直していくよりは、近くの、まだ子どもがいる学校をまず整備して、きちっと安全なものにしていくと。将来を見据えた学校施設整備というものを考えていかなければならないのかなという風に考えている。

- 会長 時間も限られてきたので、まとめさせていただく。より良い教育環境のために、今後も修繕、改修を進めて行くべきであろうと大きくまとめられると思う。ただ、その中では、計画的に実施するわけだが、今委員から意見があったように、財源が限られており、集中的にお金をかけるという視点と、広く浅くという視点と両方あって、今日は委員さんからは拠点の方が良いだろうという意見があった。この両方を視点として考えて、予算との調整という、本審議会としてはそういう言い方かと思う。その中には、他の項目でもあるように、多様なニーズに配慮した施設設備の方向かと思う。トイレの問題もそうである。

【観点6 施設の複合化】

- 会長 (6) 施設の複合化について、先ほど学校は避難施設の一つの位置付けでもあると意見があったが、今度は学校の用途というか、ニーズに対応するという役割の部分が少しある。放課後児童クラブの現状とか。この辺りについてご意見をお願いしたい。子どもの数が減っているので、教室が空いているところの学校がまだあるかと思う。余裕のある教室の活用なども以前から言われているがどうか。
- 委員 施設の複合化というのは、何を目的に推進していくのかという目的をしっかりと持った方が良い。一つは今、会長からお話があったように、各学校は空き教室ができた。それを地域のために有効活用するという方向なのか、またはそこで学んでいる子ども達と地域との交流によって、子ども達の成長を促していくのか。そういったことをある程度明確にして、この複合化というのは取り組んだ方が良いのではないかなと。複合化することによって、かなりの予算がそこに注ぎ込まれていく。その費用対効果も含めて、考えた方が良く思っている。
- 会長 そこに尽きると思う。まさに学校施設の複合化は、どういった目的、方向性を見定めて、明確にして、それに向けてふさわしい使い方を検討していくことかと思う。各論については、いろいろ余裕教室の活用とか、外部の方が入る

時の防犯とか安全の環境チェックとか、いろいろある。これは各論なので、また別の時に付け加えさせていただく。

以上6点、駆け足となったが、私の方でおおよその方向づけをさせていただいたので、次回以降、議事録をもとに、またご確認いただきたい。進行の不手際で、時間が少し遅くなってしまったが、他にいかがか。

○副会長 話し合いがまとまるところで申し訳ない。先ほど委員からの話で、障がいのあるお子さんが特別支援学校にもし行ったら、今度は逆に成長とともに、かなり改善してきたら、普通の学校に戻れないというようなお話があった。事務局の方で学校教育課の課長もいるので、また後で個別にお聞きすると良いと思う。

○委員 ぜひ聞いたみたい。その情報をもとに、その保護者は相談してきたと思う。私もまた聞きなので、そのまま今お話ししたような形だが、経緯も前後も分からない。

○副会長 ぜひ確認してほしい。

○会長 それでは議事（１）施設・設備の整備について（協議）については、この辺りとさせていただく。

（２）中学校区教育の推進について（説明）

○事務局 「第２号議案 中学校区教育の推進について」、事務局より説明。

４ その他

○事務局 審議会委員の市内小中学校訪問についての説明、及び第５回審議会日程についての連絡。

５ 閉 会